

PAT-NO: JP410271253A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 10271253 A

TITLE: MULTIFUNCTION COPYING MACHINE

PUBN-DATE: October 9, 1998

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

ITO, JINICHI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

RICOH CO LTD

COUNTRY

N/A

APPL-NO: JP09090047

APPL-DATE: March 24, 1997

INT-CL (IPC): H04N001/00, B41J029/38 , G03G021/00 , G03G021/00 , H04N001/21

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To automatically prints the number of which is equal to the number of persons entered in an invoice.

SOLUTION: Data at the time of facsimile reception is temporarily stored in a large-capacity storage device, and a delivery destination item is recognized from a fixed-form invoice attached to the head by an OCR, and print results the number of which corresponds to the number of registered delivery destinations are obtained. When FAX data passing an external interface is received, it is discriminated whether this data is a. designated invoice or not; and if it is a designated invoice, its picture image is outputted to the large- capacity storage device. Thereafter, the number of prints for persons including a main addressed person is obtained by the OCR function to make the designated number of prints.

COPYRIGHT: (C)1998,JPO



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 ファクシミリ受時のデータを大容量記憶装置に一旦蓄積し、先頭に添付された固定形式の送付状から、配布先項目をOCRで認識し、登録された配布先部数分の印刷結果を得ることを特徴とするマルチファンクション複写機。

【請求項2】 請求項1において、出力された部が誰宛てのものか判断できるように送付状に配布先項目を付すことを特徴とするマルチファンクション複写機。

【請求項3】 請求項1において、各宛先人に対する印刷の送付状を印刷後も蓄積しておき、出力された印刷物を配布後、パネル又はネットワークを介して、その送付状を破棄する機能を有することを特徴とするマルチファンクション複写機。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、コピー、プリンタ、FAX等からなるマルチファンクション複写機に関する。

## 【0002】

【従来の技術】コピー、FAX、プリンタ等からなるマルチファンクション複写機において、

(1) 従来は、FAX送信する際、第1ページ目にある送付状に、宛先人名や所属部署名を書き、同じ部署内の別の人に、そのカーボンコピーを配布する必要がある場合は、CC:で宛先人名を羅列していた。また、今までは、FAX受信出力トレイから受信文書をとった人が、コピーをとって指定された人に配布したり、メインの宛先人が必要に応じてコピーをとって指定された人に配布していたりした。

(2) 更に、従来は、カーボンコピーをとって誰宛てに配布するのか識別するのに宛先人の欄をマーカ等で色をつけることによって、配布していた。

(3) 更に、従来は、メインとなる宛先人以外に確実にその文書が配布されているという確認が第3者からできなかった。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】本発明は、上述のごとき実情に鑑みてなされたもので、(1) 送付状に記載されている人数分の印刷を自動的に出力すること、(2) 出力された各宛先人別の文書の送付状に、誰宛ての文書か識別する手段を設けること、(3) 送付状に記載されている全ての人に確実にその文書が配布されたかどうか確認する手段を提供すること、を目的としてなされたものである。

## 【0004】

【課題を解決するための手段】請求項1の発明は、ファクシミリ受時のデータを大容量記憶装置に一旦蓄積し、先頭に添付された固定形式の送付状から、配布先項目をOCRで認識し、登録された配布先部数分の印刷結果を

得ることを特徴とし、もって、送付状に記載されている人数分の印刷を自動的に出力するようにしたものである。

【0005】請求項2の発明は、請求項1の発明において、出力された部が誰宛てのものか判断できるように送付状に配布先項目を反転させるなどすることにより簡単に誰宛てに配布すればよいか識別できるようにしたことを特徴とし、もって、出力された各宛先人別の文書の送付状に、誰宛ての文書か識別する配布先を付すようにしたものである。

【0006】請求項3の発明は、請求項1の発明において、各宛先人に対する印刷の送付状を印刷後も蓄積しておき、出力された印刷物を配布後、パネル又はネットワークを介して、その送付状を破棄する機能を有することにより、配布もれをなくすことを特徴とし、もって、送付状に記載されている全ての人に確実にその文書が配布されたかどうか確認できるようにしたものである。

## 【0007】

【発明の実施の形態】図1は、本発明が適用される一般的なマルチファンクション複写機の一例を説明するための要部構成図で、図中、1は複数の排紙ビンからなる排紙ユニットで、通常、アプリケーションごとに使用する排紙ビンが決まる。2はオートドキュメントフィーダ(ADF)と呼ばれるコピーのオリジナル原稿をセットして順次自動的に給紙しコピー動作を行うための周辺機である。3はプロッタ/スキャナ部からなるコピーエンジン本体であり、本発明では、マルチファンクション複写機の代表的なアプリケーションであるCOPY、FAX、Printerからなるアプリケーション部(A)と、各アプリケーションから出力されるデータを一時蓄積するための大容量記憶部(B)と、プリンタやFAX等で使用する外部インタフェース部(C)とからなる。4は給紙ユニットである。

【0008】図2は、本発明の動作説明をするためのソフトウェア構成図で、図中、11はパネル制御部で、実際のパネル制御とマルチファンクション機特有のアプリケーション間の調停を行う。12はコピーアプリ本体、13はプリンタアプリ本体、14はFAXアプリ本体である。

(D)は各アプリケーション間の通信プロトコル機構であり、(E)は各アプリケーションで共有される大容量記憶装置15に対する通信プロトコル機構である。

【0009】(請求項1の発明)請求項1の発明は、ファクシミリ受時のデータを大容量記憶装置に一旦蓄積し、先頭に添付された固定形式の送付状から、配布先項目をOCRで認識し、登録された配布先部数分の印刷結果を得るようにしたもので、図3のフロー図に示すように、外部インタフェースを経由してきたFAXデータを受けとる際、指定送付状(例えば、図4参照)かどうか判別し、指定送付状であれば、その画像イメージを大容量記憶装置に出力する。その後、OCR機能により、主

となる宛先人を含めた印刷すべき部数を求め、指定数分印刷を行う。指定送付状でない場合は、受信FAXデータをそのまま印刷する。

【0010】（請求項2の発明）請求項2の発明は、請求項1の発明において、出力された部が誰宛てのものか判断できるように送付状に配布先項目を反転させるなどすることにより簡単に誰宛てに配布すればよいか識別できるようにしたもので、各部ごとに添付する送付状には、図5に示すように、誰に配布すべきドキュメントか簡単に識別可能なように、画像イメージに反転ラインをいれるように画像イメージを加工する。

【0011】（請求項3の発明）請求項3の発明は、請求項1の発明において、各宛先人に対する印刷の送付状を印刷後も蓄積しておき、出力された印刷物を配布後、パネル又はネットワークを介して、その送付状を破棄する機能を有することにより、配布もれをなくすようにしたもので、各部ごとに添付される送付状を管理ディレクトリに蓄積することによって（図3参照）、後から配布もれを確認できるようにしたものである。この管理ディレクトリ上の各送付状を消す手段は、文書担当者もしくは、配布された人が直接本体のパネル上、もしくは、ネットワークを利用して行う。

【0012】

【発明の効果】請求項1のマルチファンクション複写機においては、FAX送信時の出力データを大容量記憶装置に一旦蓄積し、先頭に添付する固定形式の送付状から、配布先項目をOCR認識するようにしたので、送付状に指定された配布先数分の印刷結果を自動的に得るこ

とができる。

【0013】請求項2のマルチファンクション複写機においては、出力された部が誰宛てのものか判断できるように送付状の配布先項目を反転させるなど画像加工するようにしたので、簡単に誰宛てに配布すればよいか識別することができる。

【0014】請求項3のマルチファンクション複写機においては、各宛先人に対する印刷の送付状を印刷後も管理ディレクトリ内に蓄積しておき、出力された印刷物を配布後、パネルおよびネットワークを介してその送付状を破棄する機能を設けたので、FAX文書の配布もれをなくすことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明が適用される一般的なマルチファンクション複写機の一例を示す要部構成図である。

【図2】 マルチファンクション複写機のソフトウェア構成例を示す図である。

【図3】 本発明の動作説明をするためのフロー図である。

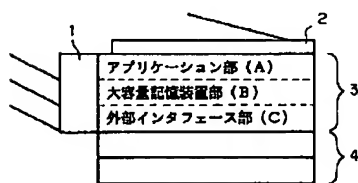
【図4】 FAX送付状の例を示す図である。

【図5】 各印刷部ごとに宛先が識別できるようにした例を示す図である。

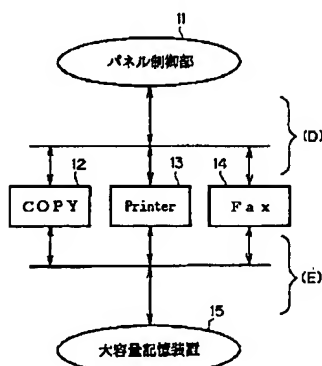
【符号の説明】

1…排紙ユニット、2…ADF、3…プロッタ/スキャナ、4…給紙ユニット、11…パネル制御部、12…コピーアプリ本体、13…プリンタアプリ本体、14…FAXアプリ本体、15…大容量記憶装置。

【図1】



【図2】

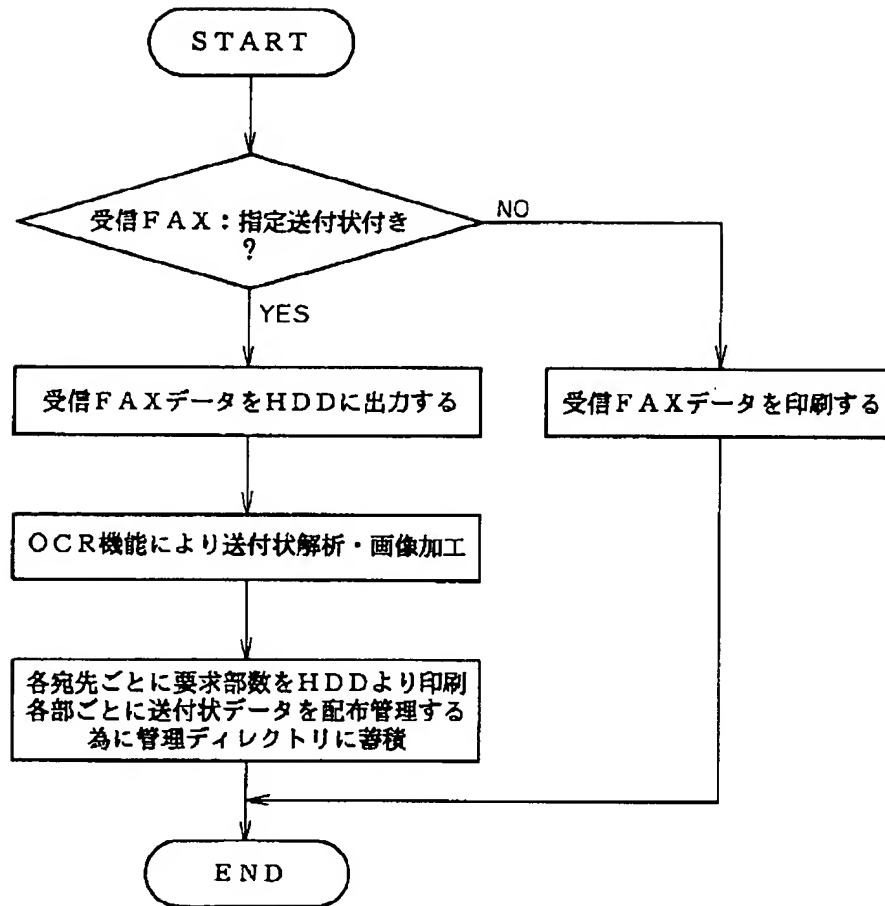


【図4】

FAX送付状の例

SUBJECT: <タイトル>  
From: <FAX送信者名>  
  
To: <主たる宛先人名>  
CC: <従たる宛先人名>

【図3】



【図5】

各印刷部ごとに宛先が識別される例

SUBJECT: <タイトル>
From: <FAX送信者名>
To: <主たる宛先人名>
CC: <従たる宛先人名>

フロントページの続き

(51)Int. Cl.<sup>6</sup>

H04N 1/21

識別記号

FI

H04N 1/21